

降誕節第4主日(白)

主日礼拝

2025年1月19日 10時20分～

司式:

奏楽:

《神の招き》

前奏 「『主の招く声が』前奏曲」 蒔田尚昊
招詞 イザヤ書6章3節b、c
賛美歌 教会福音讃美歌505

《神の言葉》

祈禱 聖霊の照らしを求める祈り
聖書 エゼキエル書2章1節～3章4節 (旧約1280頁)
マタイによる福音書4章18～25節 (新約 5頁)

こども説教 詩編40編6～12節 (48頁)
交読詩編 21—516

賛美歌 「人間をとる漁師」 八木浩史牧師

説教 祈禱
賛美歌 ことどもさんびか改訂版53

《感謝の応答》

信仰告白 使徒信条
献金 祈禱 献金当番
主の祈り (週報表紙、ホームページ掲載)

《派遣》

頌栄 545A
祝福
報告
後奏

礼拝当番: (役員:)

音響:

献金当番:

映像:

■■■ 調布教会は2026年度に創立80周年を迎えます! ■■■

「人間をとる漁師」

『エゼキエル書』は、第一回バビロン捕囚の際に、ヨヤキン王と共に捕囚されたエゼキエルの預言を記しています。捕囚はイスラエルが神に背き続けてきたために、神の裁きとして与えられた試練なのです。それゆえにバビロン捕囚の期間を耐え忍ぶことが神の御心でした。ところが捕囚されてから五年経っていたとき、ユダ王国のゼデキヤ王は、エジプトに頼ってバビロンに抵抗しようとしていたのです。その抵抗はやがて、国の滅亡と第二回バビロン捕囚を招くこととなります。そうなる前に、エゼキエルは神から預言者としての召命を受けます。神はイスラエルの民を「反逆の家」と呼ばれ、この民に御言葉を伝えよと命じられるのです。神はエゼキエルに巻物を与えられ、「この巻物を食べ、行って、イスラエルの家に語りなさい」と命じられるのです。巻物に書かれていたのは「哀歌と呻きと嘆き」です。いかにも不味そうです。しかし命じられたとおりに食べると、以外にも「口の中で蜜のように甘かった」のです。厳しい裁きを告げる御言葉ですが、そこには神の愛が込められており、その御言葉に聞き従うことによって、神による赦しと国の回復があることを示しているのです。

『マタイによる福音書』では、湖で仕事中の漁師たちに、主イエスが声をかけられ、弟子として招かれます。弟子とされた者たちはやがて御言葉を宣教する者となります。それは神の愛が詰まった福音を届ける働きなのです。